

名詞修飾表現「AのBのC」と非飽和名詞

言語学・応用言語学専門分野 4年

1LT12153W 森田千尋

1.問題提起

西山(2003)は、「AのB」という構文について次のような分類を提案している。

- (1) の₁: タイプ[A] NP₁ と関係 R を有する NP₂
- の₂: タイプ[B] NP₁ デアル NP₂
- の₃: タイプ[D] 非飽和名詞(句)NP₂ とパラメータの値 NP₁

本論文では、さらに進めて「AのBのC」という構文について考察する。「AのBのC」は語順によって容認できるかどうかが決まる。たとえば、(2)(3)である。

- (2) a. 1mの横幅の板
- b.. *横幅の1mの板
- (3) a. 努力家のジョンの兄
- b. *兄のジョンの努力家

このように非飽和名詞¹と数詞及び人名を含む「AのBのC」は、特徴的な現象が出現する。そこで以下の問題に取り組む。

- (4) 非飽和名詞と数詞及び人名を含む名詞句「AのBのC」が容認不可能になるのはどのような場合か。

2.考察

2.1.人名と非飽和名詞句を含む「AのBのC」

(5)のような人名と非飽和名詞を含む名詞句「AのBのC」について考察する。

- (5) 努力家、兄、ジョン

(5)の名詞句を含む「AのBのC」について、名詞句の構造、全体が容認できるか、[]内が文法的であるか、[]内の主要語と[]外の名詞句が併合した時文法的であるかを全語順についてまとめた表が(6)である。

- (6)

	全体	[]内	[]外	例文	備考
a. 努力家の ₂ [兄の ₂ ジョン]				努力家の兄のジョンは弁護士になった	
b. [努力家の ₂ 兄]の ₂ ジョン				努力家の兄のジョンが体を壊した	
c. 努力家の ₂ [ジョンの ₃ 兄]				努力家のジョンの兄は検察官になった	努力家なのはジョンの兄
d. [努力家の ₂ ジョン]の ₃ 兄				努力家のジョンの兄は怠け者だ	努力家なのはジョン
e. ジョンの ₃ [努力家の ₂ 兄]				ジョンの努力家の兄は警察官だ	
f. [ジョンの努力家]の兄	*	*			
g. ジョンの[兄の努力家]	*		*		
h. [ジョンの兄]の努力家	*	*	*		
i. 兄の[ジョンの努力家]	*		*		
j. 兄の[ジョンの努力家]	*	*	*		
k. 兄の ₂ [努力家の ₂ ジョン]				大学に行ったのは兄の努力家のジョンだけだ	
l. [兄の努力家]のジョン	*	*			

¹ 「主役」「作者」のように「Xの」というパラメータの値が定まらない限り意味的に充足していない名詞を非飽和名詞という。非飽和名詞はある対象がその名詞の属性を満たすかどうか自立的に定めることができない。

(6)より、[]内及び、[]内の主要語と[]外の名詞句が併合した時に文法的でないものは名詞句全体が容認できないことがわかる。さらに(6a)(6b)(6k)において、「兄」という名詞は非飽和名詞としてではなく飽和名詞として機能している。

2.2.数詞と非飽和名詞を含む「AのBのC」

(7)のような数詞と非飽和名詞を含む「AのBのC」について考察する。

(7) 1m、横幅、板

(7)の名詞句を含む「AのBのC」について、(6)と同じようにまとめた表が(8)である。

(8)

		全体	[]内	[]外	例文	備考
a.	1mの ₁ [横幅の板]	*	*			
b.	[1mの ₂ 横幅]の ₂ 板			*	1mの横幅の板を持ってください	
c.	1mの ₂ [板の ₃ 横幅]	?			3mでは無理だが1mの板の横幅なら大丈夫だ	1mなのは横幅
d.	[1mの ₁ 板]の ₃ 横幅				1mの板の横幅はどれくらいですか	1mなのは横幅以外
e.	板の ₁ [横幅の ₁ 1m]				板の横幅の1mは赤で塗ってください	板の横幅全体の長さは1mより長い
f.	[板の ₂ 横幅]の ₂ 1m				板の横幅の1mが通らない	板の横幅全体の長さは1m
g.	板の ₃ [1mの ₂ 横幅]	?			板の1mの横幅が大切だ	
h.	[板の1m]の横幅	*				
i.	横幅の[1mの板]	*		*		
j.	[横幅の1m]の板	*				
k.	横幅の[板の1m]	*				
l.	[横幅の板]の1m	*	*			

(8j)(8k)では[]内及び、[]内の主要語と[]外の名詞句が併合したものが文法的であるが容認されない。これは非飽和名詞「横幅」のパラメータの値となる「板」という名詞が非飽和名詞より後ろの位置で出現しているためである。また、(8b)は[]内の主要語と[]外の名詞句が併合したとき、文法的ではないが容認可能である。

3.結論

- (9) a. 「AのBのC」は「[AのB]のC」という場合と「Aの[BのC]」という場合があるが、 の部分が文法的であり、 の主要語と の外にある名詞句が併合したものが文法的でなければ容認できない。
- b. 「AのBのC」において、非飽和名詞はパラメータの値を「AのBのC」内に必要とするため、文頭にくることは少ない。しかし、文脈によってパラメータの値が満たされていることもあり、その場合には非飽和名詞は「AのBのC」内で飽和名詞として機能するため、文頭にくることもある。
- c. 「AのBのC」について、非飽和名詞句とそのパラメータの値となりうる名詞句が含まれている場合、非飽和名詞句がパラメータの値となりうる名詞句より前の位置に出現することはできない。しかし、「[数詞+の+非飽和名詞]+の+名詞句」という形であれば、非飽和名詞句のパラメータの値がタイプ[D]の位置で満たされていなくても容認できる。

4.参考文献

- 西山佑司(1990)「カキ料理は広島が本場だ」構文について--飽和名詞句と非飽和名詞句」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』22:168-188
- 西山佑司(2003)『日本語名詞句の意味論と語用論：指示的名詞句と非指示的名詞句』,日本語研究叢書第3期第2巻.東京：ひつじ書房